

# 検査Ⅰ

時間 四十五分

## 受検上の注意

1. 解答用紙に、受検番号・氏名を記入してください。
2. 声を出して読むはいけません。
3. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。  
方法を誤ると得点になりません。
4. 検査終了後、解答用紙を回収します。

「このページに問題はありません」

以下の【資料1】・【資料2】を読み、あとの問いに答えなさい。（\*印の付いている言葉には、本文のあとに「注」があります。）

### 資料1

たぶん、二〇一一年のことだったと思う。

交換留学で初めて日本に中长期滞在していた私は、ある日、高田馬場駅の近くの不動産屋の立て看板に書いてある文言を見て、目が点になった。看板に英語で「Are you "Gaijin" ?」とある。要は外国人向けの物件を提供しているよというアピールだったのである。

「Gaijin」という綴りは明らかに日本語なのだが、その言葉を当時の私はまだ知らなかった。が、知らなくても、恐らく漢字で書くと「外人」なのだろうと想像がつく。家に帰って調べると、確かにその通りだった。何だか嫌な言葉だなあと、直感的に不快に思ったのを覚えている。

思えば、その不快感の \*1 出自は中国語の語感だったのだろう。「外人」という二文字は、中国語ではもろに「よそ者」「部外者」といった意味合いになる。それが日本語では「外国人」を指しているのだから、つまり「外国人」よそ者」という \*2 排外主義的な発想から来る呼称なのだろうと思ひ、ただただ不快だった。そのため、後にある講演会で、ある研究者が「『外人』というのは差別用語だ」と述べたのを聞いて、やっぱりそうなんだねとすんと腑に落ちた。

今でも私は「外人」という言葉を快く思っていない。だが、よく考えれば、中国語の語感で日本語の言葉を理解するのは、それこそ初級の日本語学習者がよくやってしまうようなミスに近い気がする。いや、日本語上級者の私の経験からすれば、中国語の語感には日本語学習において大いに役立つ。しかし、もちろん全て通用するわけではない。日本語の言葉は、最終的にはやはり日本語として理解されなければならないだろう。

### 【中略】

「外人」が差別用語かどうか見定めるためには、この言葉がどんな \*3 文脈で使われてきたか調べる必要がある。そして恐らく、「外人お断り」といった差別的な用例も、「かっこいい外人さん」といった肯定的な用例もたくさん出てきて、結論がないままだろう。

結局、「外人」が差別用語かどうか、私には分からない。ただ、この言葉がまだ（本人の意思ではどうにもならない）外見的な特徴を基準にしている限り、そして物珍しさのニュアンス（「ママ見て、外人さんだ！」）を帯びている限り、私はこの言葉で呼ばれたくはない。

だから、あなたが私を外人と呼ぶ前に、どうか考えてみてほしい。目の前にいる相手を不快な気持ちにさせてまで、本当にその言葉を使う必要があるのかということ。

(李琴峰『あなたが私を外人と呼ぶ前に』による)

【注】 1 出自 — 出どころ・生まれ。

2 排外主義 — 他国の人々や思想・文化・生活様式などを嫌って退けようとする考え方や立場。

3 文脈 — 文章の流れの中にある意味内容のつながりぐあい。

## 資料2

台湾から日本へきた孟月柔(モンユエロー/もうげつじゅう)は瀬藤絵舞(せとうえま)と、中国語と日本語の違いについて話し合っている。

中国語から日本語に入った途端、漢字という下支えが失われ、意味の道が外された。地に足をつけて歩くことができなくなり、何かふわっとした気体の上を歩くような気分になった。義大利麵はスパゲッティやパスタになり、千層麵はラザニアに、通心麵はマカロニになった。速寫はクロッキーに、色を施さずに描くと

素描 はデッサンになり、

聖誕節

はクリスマスやノエルになった。

顔色

も領子もカラーになるからホワイトカラーは白色なのか

色を施さずに描くと

聖人が生まれた祭日

アメリカ

はクリスマスやノエルになった。

分からない。埃及に埃及が及ばなくなり、美國が美しくなくなり、芬蘭、荷蘭、波蘭から植物が見えなくなった。

日本へ渡ること、私は異郷暮らしという言葉が纏うような悲壯感を覚えなかった。日本台湾交流協会の奨学金を受給しているし、留学先の大学院も自分で選んだものだった。ただ、日本に来てから、自分がそれまで作り上げた世界がどれほどちっぽけなものだったかを思い知った。いきなり太陽の真っ只中に放り込まれた競泳選手のように、自分は本当の意味で泳いでいないのだと気付かされた。それがどんなに心細いことなのか、絵舞にもなかなか伝わらない。

「シヨウガツキン？」

と絵舞が訊いた。付き合ってから、私たちは時たま一緒にポラリスに行った。

「じゃ、ヘンサイ、頑張らないとだね」

「え？」私は \*3 訝った。「いや、シヨウガク、キンだよ」

「うん、シヨウガツ、キン」と彼女は繰り返した。

言葉は糸だ。人から人へ手渡される意図の糸。書き言葉は針金のような強靱な糸で、手を伸ばせば確実に掴めるし、手触りをしつかり確かめられる。しかし話し言葉は風に吹かれて揺れ動く蜘蛛の糸で、そこにあると知りながらどうしても手に握りしめることができない。確かな手触りもなく、あるのは掠られるいくような微かなもどかしさだけ。私と絵舞はいわばそんな脆弱な糸で繋がったのだ。母語で紡がれた糸ならまだはつきりと目に見えるが、そうでなければ視力が低下したように、ぼんやりとした視界の中でそれを掴もうと手探りするほかない。私にできるのは ④ 努めて視力を高めることだけだけれど、一度近視に \*4 罹ったらなかなか回復できないように、そんな努力にも限界があった。

「ヘンサイって、どういう意味？」

「返すって意味」

「なんで返すの？」

「え？」

スマートフォンで漢字に変換してはじめて、彼女の言う「シヨウガツ、キン」が私の意図した「奨学金」と同じもので、彼女の言う「ヘンサイ」を聞いた時に思い浮かべた「返済」の二文字も間違っていないことを確認できた。それまで私の世界には \*5 給付型の奨学金しかなく、\*6 貸与型の奨学金という概念が存在しなかったのが問題らしい。

「返す必要のある奨学金って、借金って言ったほうが良くない？」私が言った。

絵舞は少し首を傾げた。「でも借金って、普通利息高いんじゃない？ 奨学金の方が利息が低かったり、要らなかったりするから、やっぱり違うと思うけど……」

利息が要る奨学金もあることを知り、私は少し呆れた。奨学金と奨学金、見た目では材質も色も全く同じように見えても、中身が大きく違うらしい。

同じように見えても本当は違う糸と言えば、日本の漢字の多くはそうだった。私にとって漢字は認識の下支えであり、意味の道だった。しかし日本に入った途端、漢字のどれもがそれまで見たことのない一面を見せ始めた。仲の良い幼馴染の知らない裏の顔を見せられたような、歩き慣れたアスファルト道路が急に \*7 泥濘だらけの \*8 畦道に摺り替えられたような、何もかもが心細く感じられた。

【中略】

触れ合うのに言葉は要らない、と絵舞が言った。でも言葉を尽くしても分かり合える保証などないのだから、言葉なしで分かり合えるはずがない。そもそも、彼女が口にした言葉を私は別の言語というフィルターを通して理解しているとすれば、彼女が手渡そうとした糸と私が受け取った糸とは、同じように見えても本当は全くの別物なのかもしれない。そう思うととても歯痒く、やりきれない気持ちに私はなった。

(李琴峰『五つ数えれば三日月が』による)

【注】 1 白領階級 — 襟が白い階級の労働者。

2 ポラリス — 新宿二丁目にある飲食店。

3 訝る — あやしむ。

4 罹る — 病気になる。

5 給付型の奨学金 — 返さなくてよい、与えられた学資金。

6 貸与型の奨学金 — 返さなければならぬ、貸し与えられた学資金。

7 泥濘 — 地面の土がどろどろになっているところ。

8 畦道 — 田んぼの間の細い道。

〔問題1〕 ⑦ もちろん全て通用するわけではない。とありますが、それはなぜですか。〔資料2〕の内容を参考にして、三十字以上三十五字以内で答えなさい。

〔問題2〕 ⑧ ① 努めて視力を高めることとありますが、「視力を高める」ために、〔資料1〕の「私」はどのようなことをしていましたか。〔資料1〕の内容を参考にして、六十字以上七十字以内で具体的に答えなさい。

〔問題3〕 〔資料1〕と〔資料2〕、それぞれの内容に関連付けて、あなたは、これからの学校生活や日常生活の中で、どのように行動していこうと思いますか。五百字以上六百字以内で答えなさい。ただし次のページの条件と、「きまり」にしたがうこと。

条件

次の三段落構成にすること。  
さんだんらくこうせい

- ① 第一段落では、資料1と資料2、それぞれの内容にふれて、筆者の考えをまとめること。
- ② 第二段落では、「①」をふまえ、あなたが大事にしたいことを書くこと。
- ③ 第三段落では、「②」をふまえ、あなたのこれからの行動を具体的に書くこと。

〔きまり〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。
- 読点（、）や句点（。）や括弧（「」）もそれぞれ字数に数えます。ただし、や。や」が、行の先頭に來るときには、前の行の最後の字と同じように書きます（ますめの下の書いてもかまいません）。
- 句点（。）と括弧（「」）が続く場合には、同じように書いてもかまいません。この場合（。）で、一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。



〔以下余白〕

